

(2) 改良普及課

ア 普及指導活動の方針

本県の総合計画「～千葉の未来を切り開く～『まち』『海・緑』『ひと』がきらめく千葉の実現」の実現に向けて策定された「千葉県農林水産業振興計画」(R 4. 3)及び香取地域の農林業振興計画である「香取地域農林業振興方針」(R 4. 3)等の上位計画との整合性を取りつつ、推進に当たっては、関係機関と連携し、香取地域の主力品目の振興、地域を支える多様な担い手の育成・確保を進める。

特に、振興方針の重点施策として設定してある「露地野菜産地の維持・強化のための規模拡大経営体の育成」については、香取地域の主力品目であるさつまいもの振興をグループを越え広域で取り組み、一元集出荷場を核とした労力対策や品質向上、企業的な大規模さつまいも経営体の育成を図り、産地の維持強化を目指す。また、「県内一の水田農業を担う大規模経営体の育成・水田基盤整備と新たな担い手の育成」については、水田農業を担う集落営農の組織化・大規模水稲経営体の経営改善を目指し、スマート農業の導入、生産コスト低減対策の普及、高収益作物の導入、農地中間管理事業等の施策を活用した農地の集約化を進める。「自給飼料の安定生産と収益力の高い畜産経営の育成」については、WCS用稲等の自給飼料の安定確保と生産拡大を進めると共に、若い経営者や後継者の資質向上、堆肥等の利用拡大を図り、収益力の高い畜産経営体を育成する。

すべての課題において、積極的に担い手育成の取組支援を行い、スマート農業の現地導入に向けた活動を重点的に展開していく。

イ 活動体制

普及活動体制は、普及活動を迅速かつ効果的に展開するため地域グループを基本に、課題や品目ごとに専門・推進チームで連携して進め、課内全体として総合力を発揮して取り組む。また、普及活動を円滑に進めるため香取農業事務所内の各課、市町、農業協同組合、農業団体、試験研究機関、関係農業事務所等の関係機関との地域活動体制を強化し、普及指導活動を展開する。

ウ グループ別の方針

(ア) 北部グループ

香取市佐原地区・小見川地区及び神崎町の経営耕地面積の大半を占める水田地帯では、基盤整備を契機に新たな集落営農組織が設立された。引き続き組織の運営支援や水稲及び高収益作物の安定生産を進め、他地域へも営農ビジョン作成や組織化のノウハウを生かした集落営農の推進を図る。また、農地中間管理事業を活用した農地集積が進んでおり、さらなる作業効率向上を目指し、農地集約を検討する体制づくりを推進する。

畑作地帯の主要品目であるさつまいもは、広域となったJAかどりの施設の活用による共販体制の強化を図る。また、さつまいもの規模拡大に積極的な経営体も現れており、関係機関と連携し畑地においても担い手への農地集積を図るとと

もに、地中マーカーを活用した農地利用効率化などにも取り組む。好調な販売環境の中、近年の高温等による障害の発生が懸念されており、障害の原因究明や対策を検討するとともに、新品種の面積拡大に向けた栽培技術確立を目指す。果樹では新規栽培者の定着や参入を促進するため、新たな栽培技術の導入を図るとともに、特にナシでは既存の生産組合間での情報共有を促進し、複数組合合同での火傷病対策や市場出荷など、地域をあげた生産体制の確立を目指す。

(イ) 西部グループ

香取市栗源地区は、畑作を中心とした野菜経営が行われ、さつまいもが主要品目である。そこで、JA洗淨選果施設・貯蔵施設の活用による生産者の規模拡大支援や、生産者間の技術交流等により、さつまいも産地の維持強化を関係機関と連携して取り組む。また、高温・乾燥による生理障害対策技術の構築や主要病害対策、新品種や有望系統の検討を進め、高品質安定生産の強化を図る。

多古町では、栗山川及び借当川沿岸の地区を対象に、水田の基盤整備と集落営農体制の確立を目指して活動を展開する。また、根菜類を中心とした野菜栽培が行われている畑作地帯では、県内一の産地であるやまといも産地の活性化を図るため、収穫機等の導入による省力化や、品質・収量の向上、新たな輪作品目の導入を進め、規模拡大経営体を育成する。

自給飼料の生産拡大に向けては、畜産農家や水稻農家を対象に広域的な活動を行う。畑地利用飼料作物については、酪農後継者や飼料生産組織に対し、飼料用トウモロコシや麦類等の収量・品質改善に向けた技術指導や、機械導入に係る補助事業の活用支援を行う。水田利用飼料作物については、耕畜連携による稲WC Sの生産・利用の取組を支援し、作期分散による品質向上や適期収穫に向けた連携強化を図る。

(ウ) 東部グループ

基盤整備が行われる香取市山田地区黒部川左岸第三地区においては、集落営農組織及び大規模個人経営体の育成により地域の営農体制を確立するとともに、高収益作物の安定生産に取り組む。また、東庄町においては、水田の円滑な利用のための農地集約化に向けた、担い手間の合意形成を進める。

東庄町のこかぶを出荷する4組織の担い手の経営能力向上による規模拡大及び安定生産技術の確立を進めることにより、こかぶ産地の維持・発展を目指す。

花きやいちごの施設園芸については、若手経営者や後継者の技術改善及び経営能力向上により経営の維持発展を目指す。

畜産経営においては、規模拡大を目指す経営体に対して、早期に目標飼養頭数に達し経営を安定化させるため、事業計画作成支援及び生産成績の分析を行う。また、養豚経営において安定した出荷頭数を確保するために経営強化を進める。

エ 次代の地域農業を支える青少年・女性農業者の育成の方針

青年農業者に対し、プロジェクト学習などの段階的な研修や、土壌診断、販売力向上等に関する知識の習得、経営計画の作成・実践を支援し、自ら課題解決できる青年農業者を育成する。また、青年の相互交流の他、地域の農業士・指導農業士との交流により、就農定着を図る。

地域農業を支える担い手である女性農業者に対して研修や交流の機会を設け、経営の発展や地域の活性化に対し主体的に参画する女性農業者を育成する。

香取地域の農業の振興

香取農業事務所改良普及課

地域を支える多様な担い手の育成・確保

- 1 経営の意思決定ができる青年農業者の育成
【農業経営体育成セミナー受講生 33名、スキルアップ研修受講生 4名、さわらふアーマーズクラブ 23名】
・セミナー修了者：46名→56名
- 2 主体的に経営参画する女性農業者の育成
【キャリアアップ研修参加者 8名、かとり農業女子ネットワークショップ会員 35名等】
・キャリアアッププランを実現できる女性農業者：11名→11名

水田をフル活用した水田農業経営の安定化

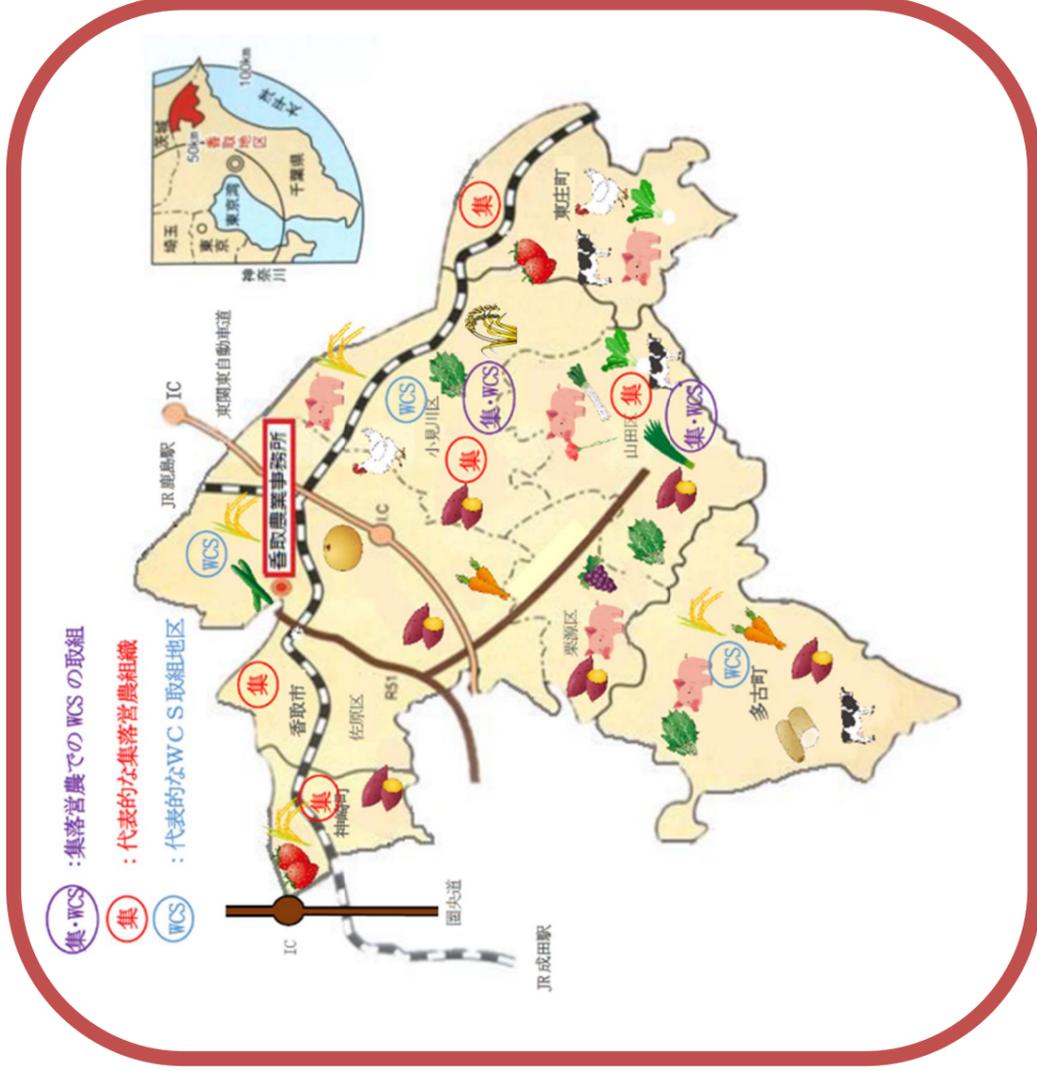
- 9 集落営農の推進および新規集落営農組織の育成
【新規集落営農組織 2組織、一ノ分目新田地区、水稲+複合品目に取り組み集落営農組織 6組織、集落営農推進地区 3地区】
・新規集落営農組織数：8組織→9組織
- 10 水田基盤整備の推進と集落営農組織の育成
【栗山川沿岸基盤整備計画地区 9地区、借当川沿岸土地改良区 1地区】
・営農組織設立：3組織→4組織
- 11 集落営農体制の確立及び地域担い手の経営発展
【黒部川左岸第三地区、東庄町柘沼地区の地域計画の担い手 13戸】
・基盤整備後の営農体制の確立：
1地区→3地区
- 12 水田大規模経営体の経営安定と水田農業の効率化
【10ha以上の水田農業経営体 156戸】
・20ha以上水田農業経営体：62戸→66戸

力強い園芸産地づくり

- 3 一元集荷場を核としたさつまいも共選共販体制の強化
【JAかとりさつまいも生産者 293戸】
・さつまいも販売金額：24.2億円→25億円
- 4 産地を担う大規模さつまいも経営体の育成
【大規模さつまいも経営体 72戸】
・対象経営体さつまいも栽培面積：406ha→470ha
- 5 新規品目導入や規模拡大によるやまといも産地の維持
【JAかとり多古町園芸部大和芋部会 49戸、JAかとり栗原園芸部大和芋部会 9戸】
・5ha以上栽培者の合計面積：63.7ha→100ha
- 6 こかぶを主体とした露地野菜産地担い手の育成
【東庄町こかぶ経営体 62戸】
・作付面積を拡大した経営体数：7戸→8戸
- 7 技術改善に取り組み経営維持発展する施設園芸担い手の育成
【花き経営体 17戸、いちご経営体 13戸】
・技術・経営改善に取り組み販売金額または単位収量が向上した経営体：13戸→15戸
- 8 園の若返りによる果樹産地の維持
【香取果樹組合 3戸、佐原南部梨組合 7戸、佐原水郷梨組合 10戸、いちじく研究会 6戸】
・ナシ改植実施者：7戸→14戸

畜産経営の体質強化

- 13 自給飼料の安定確保と生産拡大
【香取市耕畜連携農業推進協議会会員、香取酪農機械利用組合、多古町粗飼料生産組合等】
・畑地利用飼料作物栽培面積：277ha→280ha
- 14 収益力の高い畜産経営体の育成
【搾乳牛 30頭以上の酪農経営体 26戸、母豚 80頭以上の繁殖一貫養豚経営体 30戸】
・規模拡大経営体：4戸→8戸



農業経営体育成セミナーによる担い手の育成

香取農業事務所管内農業産出額(2021年)

